



# ストロングマット

\*NETIS (国土交通省の新技术登録システム) に登録されました。

【登録番号はKK-070038-Aです。】

## ストロングマットで簡単に修繕OK!

雄交では、取り扱いが簡単な貼り付け型道路補修材「ストロングマット」を開発しました。ストロングマットは、柔軟性と強度を兼ね備えたシートタイプの新しい舗装の補修材です。使い方は簡単、クラックなどの補修箇所に貼り付けるだけです。しかも、丈夫でながもち、舗装の修繕に最高のコストパフォーマンスを発揮します。

### ●特長

1. 貼り付けるだけで補修が完了するので、補修箇所のすばやい補修が可能です。
2. 高い強度特性によって、クラックの再発を長期にわたって防止することができます。
3. 余材が発生しないので、産業廃棄物としての処理が必要ありません。

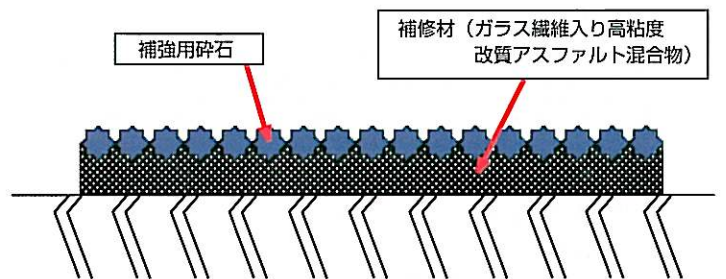
ストロングマットの外観



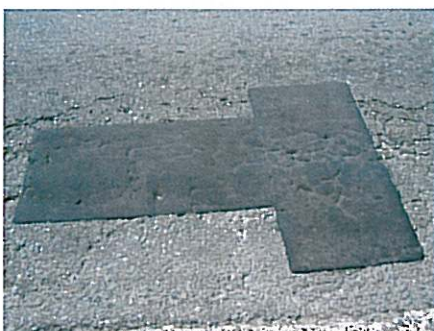
ストロングマットの大きさ  
50cm×50cm×0.5cm 重量：約3.6kg

### ストロングマットの構造

ストロングマットは、ガラス繊維入りの高粘度改質アスファルト混合物を主原料としたマット材の表面を碎石で補強した構造になっています。



### ストロングマットの使用状況





# ストロングマットの施工方法

## ● 使用する道具：

ほうき（清掃用）、ウエス、プライマー塗布用刷毛

### 1. 清掃

補修箇所を清掃し、ゴミやチリをできるだけ取り除いて下さい。

### 2. 専用プライマーの塗布と養生

補修箇所に専用プライマーを塗布します。

（1枚あたり50～100cc）

専用プライマーが指につかない程度まで、乾燥養生（1～5分間程度）させます。

### 3. ストロングマットの貼り付け

ストロングマットを補修面に貼り付けてしっかり押さえて、圧着させます。

以上で施工は完了です。

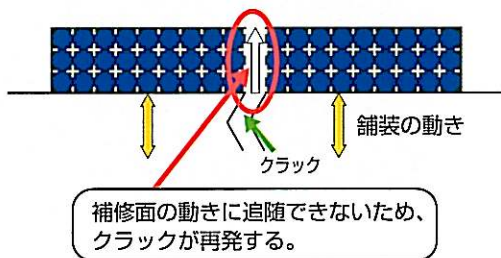


## ★ クラック補修に最適なストロングマット

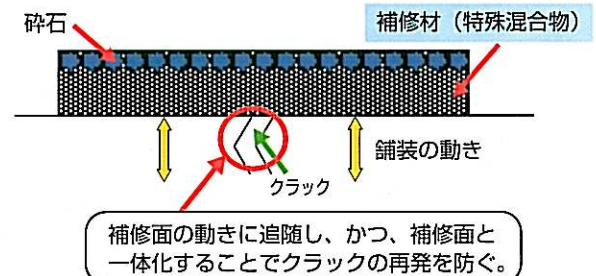
クラックは、交通荷重によって上下動するため、補修後も補修材の表面に再発することが、頻繁に生じます。そのため、クラックは、アスファルト舗装にとって、補修が難しい破損の一つとされています。

その点、ストロングマットは、**超高粘度の改質アスファルトをバインダーとし、かつガラス繊維を混入した特殊混合物を主材料としているため**、クラックの動きに追随し、かつクラック箇所と一本化することで、クラック再発の防止を可能にします。

### 通常の補修材による補修の場合



### ストロングマットによる補修の場合



## ストロングマットの強度・耐久性試験結果

### ● 引張り試験結果

試験部位	引張強度	破壊状況	試験方法
ストロングマット表面	18.4N/cm <sup>2</sup> (1.87kg/cm <sup>2</sup> )	下地表面の破壊	建研式引張り試験

ストロングマット（50cm×50cm）を剥がすためには4600kgの力が必要です。

### ● すべり抵抗試験結果

すべり抵抗値：81BPN

（1回目測定値：78 2回目測定値：80 3回目測定値：85）

すべり抵抗の一般的な基準値

車道：BPN値60以上

歩道：BPN値40以上

### ● トラバース試験結果

試験条件

繰り返し荷重載荷回数：

1280×24×7=215,040回（1週間連続載荷）

B交通（大型車交通量250～1000台/日）：260～860日相当

温度：気温（25～28℃） 荷重：6.4kg/cm<sup>2</sup>

### ● 試験結果

表面剥離：無し

すり減り量：2.0g

試験前重量：12,570g → 試験後重量：12,568g

## 取り扱い上の留意点

- 施工箇所のチリやホコリをできるだけ、取り除いてからストロングマットをご使用下さい。
- 施工面に専用のプライマーを塗布または、バーナー等で加熱してからストロングマットを貼り付けるようにして下さい。プライマーなし又は加熱不足で貼り付けると剥離する可能性があります。
- クラックが広くて深い場合には、事前に当社商品クイックバーで補修箇所を充てんしておくことをお勧め致します。
- タイヤの「据え切り」が発生する箇所の使用にはお勧め致しません。



株式会社 雄 交

URL: <http://yukou.biz>

〒563-0215 大阪府豊能郡豊能町木代524番地

TEL 072-732-2639 FAX 072-739-2773

E-Mail: [yukouhome@aol.com](mailto:yukouhome@aol.com)